編 集 後 記

ここでは、本書の企画・立案から執筆・編集作業の完了にいたるまでの経緯を、主として通史編集専門部会の活動を中心に述べたい。

本書の刊行は、1996年５月、千葉大学創立50周年記念事業の１つとして企画され、その編集・執筆の作業は、この記念事業を実施するために設けられた委員会内におかれた五十年史編集委員会のもとで行われた。同委員会の構成は付表１に示すとおりである。同編集委員会の内規にもとづき、五十年史編集室が設置され、また通史編集専門部会がおかれた。1996年９月17日に開催された第１回五十年史編集委員会は、千葉大学五十年史編纂要綱および同執筆要綱を定めた。

編集要綱の主要内容は以下のとおりである。

１　編集方針

⑴　内容は読みやすく、しかも学術的水準を保ち、卒業生や一般の人々にとって興味深いばかりでなく、大学関係者・研究者にとっても役立つものとする。

⑵　大学内部のみにとどまらず、その時々の社会情勢や文教政策にも目を配った記述とする。

⑶　『千葉大学三十年史』があることを前提に、最近20年間に重点をおいた『千葉大学五十年史』とする。

⑷　『千葉大学五十年史』は１冊とし（約1,000ページ）、構成は通史（大学全体の歴史を概観）、部局史、年表とする。「資料編」については別途検討する。

⑸　通史の記述範囲は、大学創設から現在までの50年間とするが、当初の30年間の記述は簡略にし、主として最近20年間の歴史を記す。部局史の記述範囲は、『千葉大学三十年史』以降の20年間とする。年表は50年間を対象とする。

⑹　資料・図表などの掲載は文章の説明のうえで必要なものに限る。教官一覧・講義題目一覧・各種委員会の規約・予算決算一覧などは掲載しない。

⑺　各学部の歴史は、最近20年間の学部の通史を最初におき、次に講座（教室）ごとの教育研究活動について記すものとする。なお人文学部について

は、文学部・法経学部がそれぞれの関係部分を前史として記す。

⑻　学部附属の学校・施設・センターは、当該学部の記述の中に含まれる。

⑼　廃止あるいは統合された部局については、それを継承した部局の前史として記す。ただし、教養部は独立した項目を立てる。

⑽　大学院については、各学部の歴史の中で必要に応じて記述する。ただし、社会文化科学研究科・自然科学研究科については独立の項目を立てる。

⑾　教養部については、『教養部のあゆみ』（1994年３月刊行）を参考にして記述する。

2　全体の構成

第１部　通史

第２部　部局史

第３部　年表

3　執筆の体制

⑴　通史の執筆は、五十年史編集委員会の下に組織される通史編集専門部会が行う。その人選には五十年史編集委員会委員長があたる。

⑵　各部局史の執筆は、各部局ごとに組織される部局史編集委員会が行う。その人選には各部局長があたる。

⑶　完成した原稿は、部局ごとにまとめて、期限までに五十年史編集委員会委員長に提出する。提出期限は、1997年12月末日とする。

⑷　提出された原稿の整理（重複記述の整理、文体の統一など）は、通史編集専門部会が行う。

⑸　年表の作成は、通史編集専門委員会が行う。

⑹　通史編集専門部会が行った一連の作業の最終点検は、五十年史編集委員会が行う。

通史編集専門部会は1996年12月２日に最初の会合を開いた。五十年史編集委員会委員長である山口正恆附属図書館長がその構成員の人選にあたった。構成は付表２のとおりである。このうち境野純哉は教養部に関する記述を担当することになった。通史編集専門部会の最初の作業は、資料の収集と整理であった。もちろん、先の『千葉大学三十年史』作成の過程で資料の収集が開始され、附属図書館内に設置された年史関係資料室には、同書の執筆に利用された資料とともに、各部局から提出された文書が

集積されていた。しかしこれらは十分には整理されてはおらず、また執筆に必要な資料が揃っているとは言い難いのが実状であった。事務局文書室などで文書を探索し、必要に応じてこれらの文書ないしその写しを確保する作業が行われた。

また年史関係資料室には、1997年３月以降、１名の、また同年９月以降には２名の非常勤職員が配置され、収集された資料の整理にあたった。このほか、さらに１名の非常勤職員が、当初、主としてこれら資料のデータベース化の作業を進めた。これら非常勤職員の氏名と勤務期間は付表３に示す。

通史編集専門部会は、委員の多忙にもかかわらず、ほぼ毎月１回の割合で開かれた。なお、同専門部会の会合は1999年８月末日までに計39回におよんだ。そこでは、『千葉大学三十年史』を精読すると同時に、仮に作成した年表により過去20年間の大学の歩みを振り返り、大学全体にとって重要な意味をもつ学部・大学院研究科・センターなどの設置・拡充を拾いあげ、時期区分を設定した。そのうえで、各委員の担当すべき項目を確定していった。学生生活に関しては、とくに時期区分を設定することなく20年間を通してその変化を追うこととした。その間、人文学部改組、文学部・法経学部創設に関しては元文学部長宇野俊一名誉教授を、また自然科学研究科設置に関しては元工学部長大川澄雄教授を招いてヒアリングを行った。ご多用にもかかわらず、快く専門部会の要請に応じて貴重な体験を語ってくださった両氏に感謝したい。

各部局からの原稿は、一部を除いて、1997年度内にほぼ出そろったので、順次、これら原稿の素読と表記の統一等の編集および原稿のコンピュータへの入力の作業を開始した。だが、この頃、専門部会は予期されなかった困難に直面した。委員の１人であった久留島助教授が1998年３月をもって国立歴史民俗博物館へ転出したのである。とくに同助教授が意欲をもって取り組み、資料の収集等にもつとめてきた学生生活に関する記述が有力な書き手を失うこととなった。それにも拘わらず、これに関する記述を第５章「千葉大生の生活と意識」にまとめることができたのは、ひとつには千葉大学生活協同組合の好意により、同協同組合がこれまで実施してきた「学生生活実態調査」を利用することができたことによる。ただこの調査は、当然のことながら、協同組合にとっての必要性に発するもので、大学史の視点からするならば、そこに避けがたい限界のあることは否めなかった。この弱点を補って余りある、興味深い多くの資料を提供してくれたのが、教育学部教育社会学明石要一教授とその指導下の学生により1985年と1989年の２度にわたり作成された『千葉大生白書』であった。さらに、学生の生活と意識を若い感性で理解し、大量の資料を整理してその変化の諸相を的確にとらえるうえで、非常勤職員石井利明が大きな力となった。

編 集 後 記

1998年４月、附属図書館長の交代にともない、土屋俊が新たに五十年史編集委員会委員長に就任した。通史編集専門部会は、部局史原稿の校訂・編集をすすめ、必要に応じて、記述の変更、あるいは編集要綱にそぐわない部分の訂正・削除などを各担当者に要請した。これらの作業を終えたうえで、原稿を各部局において、再度確認してもらう手続きをとった。

必要な資料が収集・整理された1998年夏以降、通史編集専門部会の各委員は通史の執筆にとりかかった。委員の大半は、学部・大学院の授業はもちろんのこと、他の校務を抱える多忙の毎日のなかで、夏休みを執筆にあてるなど研究のための時間をこのために犠牲にせざるをえなかった。原稿の書き直し、追加・訂正等の作業は1999年夏まで続いた。なお、通史編集専門部会で教養部に関する記述を担当した境野委員は、1999年３月をもって停年により退官した。

1998年11月９日に開催された千葉大学創立五十周年記念事業委員会で、土屋五十年史編集委員会委員長の提案により、本書のCD-ROM版をまず作成し、その後に印刷体による出版を行うことが承認された。序文の執筆と題字の揮毫を磯野可一学長にお願いし、快諾を得た。

1999年８月４日に開催された五十年史編集委員会は、本書の目次案等を審議の上、承認した。この審議にもとづいて、通史編集専門部会は章のタイトルの表現に一部修正を施した。

通史の記述にあたっては、資料を精査して正確を期した。しかし、編集要綱に掲げられた編集方針が十分に実現されたとは言い難い。この点は反省しなければならない。また章立てについては、時系列順を優先させるか、関係する問題との整合性を重視するかなどの点で、あるいは関係部局にはそれぞれ不満の残るところがあるかもしれない。部局史については、割り当ての枚数を大幅に超過し、しかも記述に直接関係しない大量の表などが付されている場合、これらを通史編集専門部会の責任において削除した。ご了承願いたい。

五十年史編集を事務局で担当した、当初、文書広報係、現在の広報係の職員、年史関係資料室で大量の資料の整理と入力、何度も書き改められた原稿の整理と校正に尽力した非常勤職員に深く感謝したい。また資料の提供等に応じてくれた関係部局職員にも、あらためて感謝する。

1999年８月

五十年史編集委員会内通史編集専門部会を代表して

下　村　由　一

付表１　千葉大学創立五十周年記念事業委員会内五十年史編集委員会委員

部局等	職名	氏名	任期
附属図書館	附属図書館長 （委員長）	山口正恆 土屋　俊	平成８年６月19日～平成10年３月31日 平成10年４月１日～
文学部	教授	小野正雄	平成８年６月19日～
教育学部	助教授 講師	久留島　浩 後藤雅知	平成８年６月19日～平成10年３月31日 平成10年４月１日～
法経学部	教授 教授	佐々木陽一郎 柿原和夫	平成８年６月19日～平成10年３月31日 平成10年４月１日～
理学部	教授 教授	中野　實 金子克美	平成８年６月19日～平成11年２月28日 平成11年３月１日～
医学部	教授	千葉胤道	平成８年６月19日～
薬学部	教授 教授	今成登志男 小林　弘	平成８年６月19日～平成９年５月31日 平成９年６月１日～
看護学部	助教授	森　恵美	平成８年６月19日～
工学部	教授	堀　善夫	平成８年６月19日～
園芸学部	教授	矢橋晨吾	平成８年６月19日～
社会文化科学研究科	教授	小野正雄	平成８年６月19日～
自然科学研究科	教授 教授	榊　陽 飯本光雄	平成８年６月19日～平成９年３月31日 平成９年４月１日～
医学部附属病院	教授	北原　宏	平成８年６月19日～
外国語センター	教授 教授	境野純哉 村田　年	平成８年６月19日～平成11年３月31日 平成11年４月１日～
環境リモートセンシング研究センター	講師	岡山　浩	平成８年６月19日～
真菌医学研究センター	教授	赤尾三太郎	平成８年６月19日～
総務部	総務部長	辻　幸一 菊池俊昭	平成８年６月19日～平成10年３月31日 平成10年４月１日～
	名誉教授	下村由一	平成８年６月19日～

付表２　五十年史編集委員会内通史編集専門部会委員

氏　　名	職　　名	部　　局	任　　期　　等
山　口　正　恆 土　屋　　俊	附属図書館長 （委員長）	附属図書館	平成８年12月２日～平成10年３月31日 平成10年４月１日～
小　野　正　雄	教　　授	文 学 部	平成８年12月２日～
三　宅　明　正	教　　授	文 学 部	平成８年12月２日～
久留島　　浩	助 教 授	教育学部	平成８年12月２日～平成10年３月31日
宮　崎　隆　次	教　　授	法経学部	平成８年12月２日～
境　野　純　哉	教　　授	外国語センター	平成８年12月２日～平成11年３月31日
下　村　由　一	名誉教授		平成８年12月２日～
石　井　利　明	編集協力者		平成９年３月１日～

付表３　五十年史編集室非常勤職員

氏　　名	任　　期
井　口　貴　之	平成９年３月１日～平成９年８月７日
長　島　由　佳	平成９年３月10日～平成10年７月10日
北　村　紀　恵	平成９年９月１日～平成10年６月30日
平　賀　敬　子	平成10年７月13日～平成11年３月31日
鈴　木　清　史	平成10年７月13日～
中　村　隆　文	平成11年４月１日～

千 葉 大 学 五 十 年 史

平成11年11月30日発行
編　集　　千葉大学五十年史編集委員会
発　行　　千　　葉　　大　　学
　　千葉市稲毛区弥生町１番33号
印刷所　　株 式 会 社　ぎ ょ う せ い
　　東京都中央区銀座７丁目４番12号